

神奈川県立津久井支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催しました。

会議名称	令和8年度 津久井支援学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和8年5月26日（火） 9時30分～11時30分
開催場所	神奈川県立津久井支援学校 3階 会議
出席	学校運営協議会委員9名 事務局9名
会議資料	・学校運営協議会運営要綱 ・令和8年度学校運営協議会委員及び事務局名簿 ・令和8年度 学校運営協議会運営計画 ・津久井支援学校グランドデザイン ・学校教育計画（令和6年度～令和9年度） ・令和7年度 学校評価実施結果 ・令和8年度 学校評価目標設定・学校運営の基本方針・つくいだより4月号 ・神奈川県立学校のコミュニティ・スクール（令和6年4月）
1. 開会・司会挨拶 司会より開会。 本日の流れとして、前半に学校評価の説明、授業見学を挟み、後半に協議を行う旨が説明された。	
2. 校長挨拶 <ul style="list-style-type: none">本校は自然豊かな環境にあるが、その良さを子どもたちにもっと伝えていきたい。現在、遠足や修学旅行を終え、今後は地域交流や実習など地域と関わる学びが進む。本協議会において、地域の意見を学校運営に反映させていきたい。	
3. 委員・事務局紹介 各委員および事務局より自己紹介が行われた。	
4. 会長選出 事務局推薦により、会長を選出した。	
5. 学校運営協議会の概要説明 事務局より以下の説明を行った。 (1) 目的 <ul style="list-style-type: none">学校・保護者・地域が協働し、「地域とともにある学校づくり」を推進する。 (2) 主な役割 <ol style="list-style-type: none">校長が作成する学校運営方針の承認学校運営に関する意見提出教職員配置等について教育委員会への意見提出	

6. 協議会の体制・年間計画

- 学校評価部会
- 切れ目ない支援部会
- 地域共同防災部会（今年度新設）

協議会は年3回開催予定。

7. 学校運営方針（校長説明）

校長より今年度の重点として以下3点について説明

1. 地域を生かした教育の充実

地域と協働し、学びを深める。

2. 働き方改革の推進

教育課程見直しにより教職員の負担軽減を図る。

3. 良好な職場環境づくり

職場の雰囲気向上が子どもへの教育に影響することを重視。

8. 学校教育目標・県のミッション

- 共生社会の実現に向け、児童生徒の自立と社会参加を重視。
- 小中高一貫で個に応じた教育を推進。
- センターの機能（地域支援）を担う。

9. 学校評価（5つの視点）

（1）教育課程・学習指導

成果・課題

- 学びの見える化が課題
- 地域とつながる授業の評価あり

今年度重点

- ICT活用
- 授業改善
- 「やってみたい」を引き出す学び

主な取組

- 学部を越えた学習時間の設定
- 「つくいタイム」の新設
- 水曜日の早下校（働き方改善）

質疑応答

委員）次期学習指導要領について。

事務局）現行の学習指導要領（平成29・31年告示）は、すでに見直し作業が進められており、次期改訂に向けた検討が本格化している。おおよそ10年周期で改定が行われている。

事務局）今回提示したキーワードは、これからの学びを整理し、教員が意識して取り組むための方向性を示す目的で設定したもの。これらを手がかりに、教育の質をさらに高めていきたいと考え

ている。次期学習指導要領の具体的な内容はまだ公表されていないが、今後3～4年の間に方向性が示される見通し。すでに中央教育審議会などでは議論が進んでおり、骨格となる考え方が徐々に見えてきている。その動きを踏まえながら制度改正に備えている状況である。

委員) 国の方では話し合われており、その状況を見据えながら進めていくということ。水曜日課はどうか。

事務局) 小学部はこれまでも13:30下校だったが、中学部・高等部は水曜日15:00下校から13:30下校となった。体調を整えて週後半に臨むことができ、好評。

委員) 保護者にとっては良い面と負担の面と両方ある。「つくいタイム」はどういう感じか。

委員) 小中高給食後の時間を「つくいタイム」としている。食後ゆっくりする時間に好きなことに取り組んだり、教員からこんなことやるけれどどうか、椅子ならべを手伝ってくれないかど、ボランティアのような要素もとりにいれて提案し、やってみたい、楽しみたいを引き出している。

委員) 昼休みではなく自立活動の時間ということか。先生方が大変ではないか。

事務局) もともと自立活動の時間であり、教員の指導の時間である。児童・生徒のやってみようという時間に充てている。まだ教員主導の部分が多いが、生徒会選挙では、立候補者の中に「つくいタイム」の時間にみんなで何かをしたいという公約が出てきたりしている。手ごたえを感じている。

(2) 児童・生徒指導・支援

重点

- 児童・生徒の思いを反映した個別教育計画
- 専門職との連携強化

主な取組

- 個別教育計画への本人参加
- アセスメント活用
- 多職種連携(心理士、看護師、栄養教諭、養護教諭等)

質疑応答

委員) 専門職とは。太田ステージとは。

事務局) 本校には自立活動教諭の心理士、看護師、栄養教諭、養護教諭がいる。ブロックにはST、PT、OTがいる。それぞれが持つ専門性を生かしていきたい。

太田ステージについては、アセスメントの中では割と簡便で短時間ででき、研修すれば教員でもできる。認知発達面の段階のステージに合わせて指導内容を検討できる。

委員) 面談への児童・生徒の参加について。高等部から小中学部にも拡大する話があったが、どういう風にしていくのか。

事務局) 小中学部については、担任と取り組んでいこうと相談している段階。どのように児童・生徒の意思をくみ取るか工夫が必要。

委員) 意思の表出が難しい方が多くいる。アセスメントをしっかりと、エビデンスに基づいて専門職と連携して行っていく。児童・生徒の思いは大切であるが、保護者の思いはどうか。

委員) 保護者の思いはどの方も強い。だからこそ、保護者と教員で決めてしまい、本人の思いや願いが置いて行かれることがある。どのようにしてバランスを取っていくべきか。本人の思いや願いを、もっと掘り下げていきたいと思う。

委員) 福祉では個別のサービス等利用計画作成が義務付けられている。文書に振り回されて、日常の関わりの時間が減っている状況がある。教育の世界は学習指導要領という目標があるが、大人になるとすべて個別に対応することになる。

(3) 進路指導・支援

重点

- 自己理解・他者理解の促進
- 自己選択・自己決定力の育成

取組

- 自己理解・体験学習を通じた進路選択支援
- 地域企業・福祉事業所との連携

質疑応答

委員) 進路先の内訳を知りたい。

事務局) 卒業生 15 名。就職は特例子会社に 2 名。生活介護 3 名。自立訓練 1 名。就労継続支援 B 型 7 名。A 型 1 名。療養介護 1 名。

事務局) 就労継続支援 B 型の事業所は、就職に繋げるために取組んでいる事業所も多くある。少し時間をかけて次へつなげていこうとする事業所があり、そういった場所を選択する方が増えている。

委員) 仕事を行っていることが楽しいか、収入とのバランスだと思う。うちでは、給料の使い道があまりない人が多い。働く意味をどんなふうに捉えているか。

委員) 社員の中にはゲームに給料を使ってしまう方もいる。特例子会社として学校と連携して取り組むことができればと思う。我々のところに就職した方は学校や訓練校等で職業訓練を受けてきた人は 75% いる。本日も授業で身だしなみ等を学んでいた。ここで働きたいという意欲が就労準備性の向上等のすべてに結び付いていく感覚がある。会社見学などで、ここで働きたいと思えばその後変わってくると感じている。保護者の話もあったが、保護者の支援は大切。しかし、過度であると、社会に出た時に苦勞するのは本人である。そういうことを保護者に伝えられるのは企業側の立場ではないか。そのような利用の仕方もしていただけると良いと思う。

委員) 地域の企業でも実習の機会はあると思う。一昨年前には障害のある方向けの職業体験会を行った。

委員) 自己理解、他者理解は大人でもできていないことが多い。資料に教員の働きかけを意識と書かれているが、新たな目標として、具体的にはどういう取り組みをするのか。

事務局) 授業の毎時間「この時間の目標」を掲げ、授業終了後に振り返る。積み重ねを日々の授業でおこない、次のステップへと繋げていく。やってきたことや評価を通して自己理解、あなりたい、こうなりたいと思う自分づくりの一助になればいいということ。

事務局) 自己理解、他者理解は、自分の得意不得意の自己分析。作業学習、実習を通してこんなことなら頑張れる、苦手を受け止め自己理解につなげるという学習をしている。他者理解の学習は、あの人はこうだけど、自分は違うなどこういうところから始まる。知的障害教育部門、肢体不自由教育部門と一緒に生活をしており、自分のペースと異なることも多くある。同じクラスで生活をしていく中で皆に合わせよう、という意識、身体で覚えていく、学んでいることがあり成長し

ていく部分。修学旅行でも友達を思いやり、生徒自身で選んで考えて行動をする場面があった。本校の特色を生かした、自己理解、他者理解、成長の仕方だと改めて感じた。
委員) 授業で常に振り返りを行い、積み上げているということが分かった。

(4) 地域連携・交流

重点

- 地域と協働した学び
- 交流から共同学習へ発展

主な取組

- 地域資源活用授業
- 学校間交流の充実
- センターの機能（巡回相談等）

質疑応答

委員) 今年度、小原本陣祭 30 周年にあたる。（委員の所属する）小学校高学年が祭りの実行委員の方から話を聞く機会があった。津久井支援学校とも一緒に何かできるとよい。

センター的機能については、過去に一人の子に複数で来ていただきアドバイスをいただいたこともあった。

交流及び共同学習について。先ほどの授業見学で、過去に交流で関わった生徒の成長を拝見。とてもうれしく思う。学校間交流も日常的な交流をしたいという話を聞いており、休み時間等で子どもたちと一緒に何気ない活動を重ねていきたい。以前、隣に保育園がある小学校にいたときに、「ちょっと今から行くから」と休み時間に一緒に遊んだり、運動会の練習の応援をしてくれたりした。応援だけでもうれしいもの。お互いにとって、いい関係にしていきたい。

先程、自己理解、他者理解の話があったが、小中高ではキャリアパスポートを作成している。自分で計画を立て、振り返ったものを友人、担任、家庭へ見てもらい、形になるものを作っている。

委員) センターの機能として充分機能していると思う。支援級、不登校等、学校教育の中でメインのストリームにいない方がいる。近隣に引きこもっている方の掘り起こしを行っている NPO がある。今後、学校教育の範囲で、センター的機能として繋がりを持ってほしい。

(5) 学校運営・働き方改革

重点

- 業務効率化
- 安全・防災体制の強化

取組

- 水曜日課導入
- 職員意見の収集と共有
- 防災訓練の充実

質疑応答

委員) 先生方の業務負担軽減ということで、効率化に努めていると思う。津久井支援学校は他の学校と比べて、働きやすい学校であるのか、印象はどうか。

事務局) とともチームワークがいい学校だと思う。

委員) 県の校務支援システムが入ってきたと聞いているが、いかがか。

事務局) 県の働き方改革を進める手立ての一つとして、校務支援システムが導入された。色々な情報を一元化している。保護者が欠席連絡を入れると、出席簿にも反映される等の仕組みがある。現場の感覚としては、まだ校務支援システムを動かすことが大変な印象である。導入されたものの定着までの過渡期。今後期待したい。本校は小規模であるが、大きい学校と同じように、行事、分掌がある。それを少ない人数でこなすことが大変である。

委員) 災害時の対応について、委員にも協力をいただき、市の防災を担当する部署とつながって、具体的に形が見えるといいと思う。

(6)全体を通して

委員) 地域資源は学校の一方的な「活用」ではなく、ともに取り組む「協働」という視点を大切にしてほしい。

10. 部会活動説明

(1) 切れ目ない支援部会 (7月28日 火曜日 / 12月1日 火曜日)

- 就学前から卒業後までの一貫支援
- 共通言語化と情報共有

(2) 地域協働・防災部会 (6月24日 水曜日 / 9月11日 金曜日)

- 地域住民と連携した防災活動
- 宿泊防災学習・避難訓練の実施

11. 承認

本日の説明内容および今年度の学校運営について、協議会として承認された。

12. 今後の予定

- 第2回協議会 : 10月13日予定
- 各部会日程 : 別紙参照

13. 閉会

校長より謝辞が述べられ、閉会。